

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02017

研究課題名（和文）ボルネオ社会編成の基礎研究：汽水域・流域・間流域からの新モデル構築

研究課題名（英文）Basic Research on Social Organization of Borneo: Building a New Model from Brackish, Watershed, and Interwatershed Perspectives

研究代表者

石川 登 (ishikawa, Noboru)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：50273503

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ボルネオ島サラワク州中部流域社会の民族移動史、婚姻関係、親族関係について、E・リーチとR・ニーダムによる1950年代のプナン調査ならびに流域調査の再検討を行い、The Sarawak Gazette (1871年-1963年)の地区報告を精読し、Penan, Punan, Vaie Segan, Bakong, Narumなどの山地少数民族に関する植民地行政記録の精査を行い、この研究成果に基づいて2024年3月14日、ブルネイ・ダルサラム大学アジア研究所においてThe Coastal Penans: Revisiting E.R. Leach and R. Needhamと題する発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サラワク州Kemena流域での臨地調査では、「中流域」は内陸部にありながら「擬似下流」としての性格をもち、沿岸部から遡上したイスラム商人と森林産物をもたらす山地民との交易拠点となったこと、「中流域」「汽水域」ではVaie Seganを中心としたイスラム・コミュニティが形成され、Penanなどの先住山地民のイスラム化も進んでいること、「沿岸部」では、山地民イスラム化の下流への移住を経てPenan Islamなどのイスラム集落が形成され、MelanauやSarawak Malayなどの平地イスラム集団との混住の進行を明らかにし、従来の「山地」対「平地」の二分法的理解に疑義を投げかけた。

研究成果の概要（英文）：Collecting data on the migration history, intermarriage, and kinship of ethnic groups in the watershed communities of central Sarawak, Borneo; reviewing the 1950s Punan and watershed surveys conducted by E. Leach and R. Needham; and reviewing colonial documents in The Sarawak Gazette. I have also reviewed 92 years of district reports by the district administrators from 1871 to 1963, and transcribed the colonial administrative records of the Penan, Punan, Vaie Segan, Bakong, Narum, and other mountainous ethnic minorities. Based on these research results, I gave a presentation titled The Coastal Penans: Revisiting E.R. Leach and R. Needham with co-researcher Jayl Langub at the Institute of Asian Studies, Brunei Darussalam University, March 14, 2024.

研究分野：文化人類学 東南アジア地域研究

キーワード：海域東南アジア マレーシア サラワク 流域社会 イスラム化 山地 平地 交易

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

科学研究費基盤研究(S) 2010-2014 年度『東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究』(研究代表者)では、東マレーシア中部 Kemena 川の河口から最上流域までを一つの分析単位とし、アブラヤシ農園に包摂される流域社会の変容を考察した。この調査のデータ収集過程で、集落や民族集団が単一生態環境を越えて広域な移動履歴を持つこと、

これらの社会集団が多民族的に構成されること、流域社会が、人々の複合的経済活動を可能とする「多生業空間」であること、Kemena 川を含むサラワク州中部流域に9カ所の水系連結ポイントが存在し、人々の広範囲な移動経路と婚姻ネットワークを担保していることが確認できた。特に、Kemena 川中流域と河口汽水域での調査から、中流域と下流域を結ぶ流域にイスラム化したダヤック系山地民コミュニティが存在することが確認された。Vaie Segan とイスラム系 Penan の二つの民族集団に関する調査はサラワクの民族誌研究において未踏領域であった。

2. 研究の目的

本研究では、15世紀以降東南アジア海域世界で継続しているイスラム化について、これを従来のボルネオの民族関係を「山地民」と「平地民」という静的な二分法を瓦解する歴史的現象を位置づけ、河川水系を単位とする社会システム(流域社会)をもつマレーシア領サラワク州クマナ川水系を例に、山地民起源のイスラム系集団の民族間関係、親族関係、生態環境適応、人口移動、生業転換、言語使用などに関するデータを多地点調査から収集し、山地民のイスラム化、山地民の平地民への包摂を史実ではなく共時的プロセスとして考察することを目的とした。

3. 研究の方法

臨地調査では、マレーシア領サラワク州 Kemena 川水系の「中流域」と「汽水域・沿岸部」において、山地民起源のイスラム系民族集団 Vaie Segan (バイ・スガン)とイスラム化が進行する元狩猟採集民集団 Penan についての臨地調査を行い、以下の知見を得た。「中流域」は内陸部にありながら「擬似下流」としての性格をもち、沿岸部から遡上したイスラム商人と森林産物をもたらす山地民との交易拠点となってきた。同地域では Vaie Segan を中心としたイスラム・コミュニティが形成され、Penan などの先住山地民のイスラム化も進んでいる。これに対して「汽水域・沿岸部」では、イスラム化した山地民の下流への移住などの長期プロセスを経て、Vaie Segan に加えて Penan Islam などのイスラム集落が形成され、Melanau や Sarawak Malay などの平地イスラム集団との混住が進んでいることが明らかとなった。

ボルネオ島サラワク州中部流域社会の民族集団の移動史、婚姻関係、親族関係についてデータ収集を行い、E・リーチとR・ニーダムによる1950年台のプナン調査ならびに流域調査の再検討を行うとともに、植民地資料 The Sarawak Gazette (『サラワク官報』)を1871年より1963年の92年間に渡る行政官による地区報告(英文)を精読し、Penan, Punan, Vaie Segan, Bakong,

Narum などの山地少数民族に関する植民地行政記録の書き起こし作業を行った。

4. 研究成果

臨地調査および史資料調査により、もともと内陸部に居住し、遊動性の高い採集狩猟民であった Penan は、Kemena 川中流域ならびに下流域におけるブルネイからの貿易商人との接触を通してイスラムに入信し、土着のイスラム集団である Vaie Segan との共住が進んだ。このプロセスで言語は Penan 語から Vaie Segan 語にシフトし、イスラム教の Penan の多くは、Vaie Segan、もしくは Melayu と規定され、多くはその ID 上の民族名をこれらのイスラム系集団名を用いている。このようなイスラム教入信による民族集団の変化は、E. Leach がその Social Science Research in Sarawak (1950)で河川の上流から下流のベクトルで発生する cultural drift に相当するものと考えられ、山地民が平地のイスラム系集団に包摂されていく過程として説明できるものである。

本研究の成果は、従来の海域東南アジア研究で支配的であった生態環境と社会編成の安易な類型化とこれに起因する「平地 山地」の二分法に基づく社会編成の静態的理解の脱構築にある。すなわち、東南アジア研究では、海面からの標高により「海域 陸域」さらに「平地 山地」が対置され、生態環境に応じて「海洋民」「平地民」「山地民」、そして「交易」「焼畑」「採集狩猟」など社会集団と生業が範疇化されてきた。生態環境を重視する社会編成論は、海域東南アジア、特にボルネオ島研究においても顕著である。たとえば「港市-内陸後背地」モデルでは、河口の交易拠点と平地稲作社会以外の世界は全て「内陸後背地」(Bronson 1977)と一括され、「平地民-山地民」の棲み分けモデルでは、「下流-上流」の区別が平地イスラム社会と山地ダヤック社会を識別する単一指標とされてきた(Rousseau 1990)。

平地（下流）	山地（上流）
政治的中心	政治的周縁
灌漑集権社会	環境依存的な小社会
大伝統（文明）	小伝統
文字	口承
定着農耕（水稲）	焼畑移動耕作（陸稲）
世界宗教（イスラム・仏教）	アニミズム

このように、東南アジアの社会編成論においては、生態学的要件としての「山地-平地」ならびに社会的範疇としての「山地民-平地民」の二項対立に基づいた理解が支配的となってきた。これに対して本研究では、山地と平地を結ぶ「流域社会」を分析対象とし、山地民のイスラム化という動態に焦点をあて、東南アジアの社会編成に関する二分法的かつ静態的理解の再考を行った

これらの研究成果に基づいて「The Coastal Penans: Revisiting E.R. Leach and R. Needham」と題する発表を2024年3月14日、ブルネイ・ダルサラム大学アジア研究所において共同研究者の Jayl Langub 氏と行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Miles Kenny-Lazar and Noboru Ishikawa	4. 巻 10
2. 論文標題 Mega-Plantations in Southeast Asia: Landscape of Displacement	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Environment and Society	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Noboru Ishikawa
2. 発表標題 Introduction: Locating Zomias Wet and Dry: Stateless Spaces in Maritime and Mainland Southeast Asia
3. 学会等名 EuroSEAS 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noboru Ishikawa
2. 発表標題 Wet Zomia, Watersheds and Connectivity in Malaysian Borneo
3. 学会等名 EuroSEAS 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Noboru Ishikawa and Masao Imamura
2. 発表標題 Locating Zomias Dry and Wet: Stateless Spaces in Mainland and Maritime Southeast Asia
3. 学会等名 東南アジア学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年～2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Noboru Ishikawa and Soda Ryoji	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 520
3. 書名 Anthropogenic Tropical Forests: Human-nature Interfaces on the Plantation Frontier	

1. 著者名 Noboru Ishikawa and Ryoji Soda	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 520
3. 書名 Anthropogenic Tropical Forests: Human-Nature Interfaces on the Plantation Frontier	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Locating Zomias Wet and Dry: Stateless Spaces in Maritime and Mainland Southeast Asia	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------